

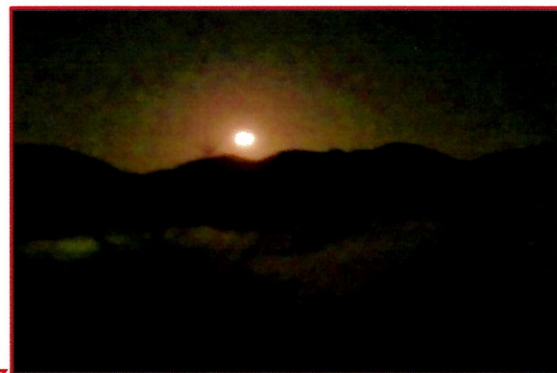
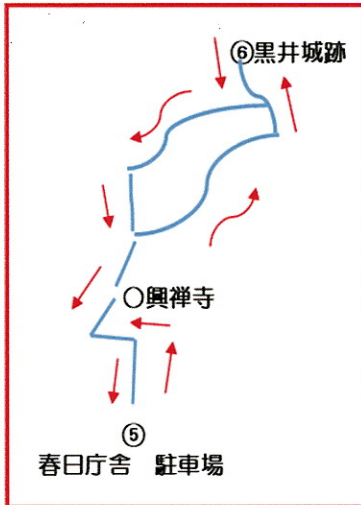
# 立雲峡 & 竹田城跡 & 黒井城跡 (ハイライトシーン)



[※ 実施日--2022年11月 8日(火)] ※弥生班 計8名

① (満月に浮かぶ山々と雲海)

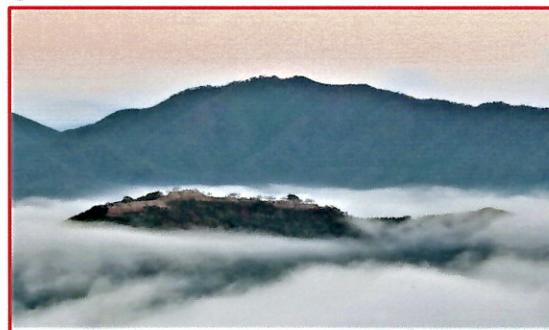
(立雲峡&竹田城跡 ロードマップ) (黒井城跡のロードマップ)



② (夜が明け「竹田城跡」が船の如く浮かぶ)



③ (空が赤くなり「天空の城」がはっきりと)



⑥ (立雲峡から竹田城跡をバックに) ➡ ⑦ (竹田城跡へ)



⑧ (竹田城跡 北千畳から)



⑨ (竹田城跡一本丸)



④ (雲海が川のように流れ色の变化も一)



⑤ (石垣の姿がはっきり、幻想的なシーン)



⑩ (黒井城跡 別名一保月城跡)





# 立雲峡・竹田城跡・黒井城跡

# 紀峰山の会 (弥生班)

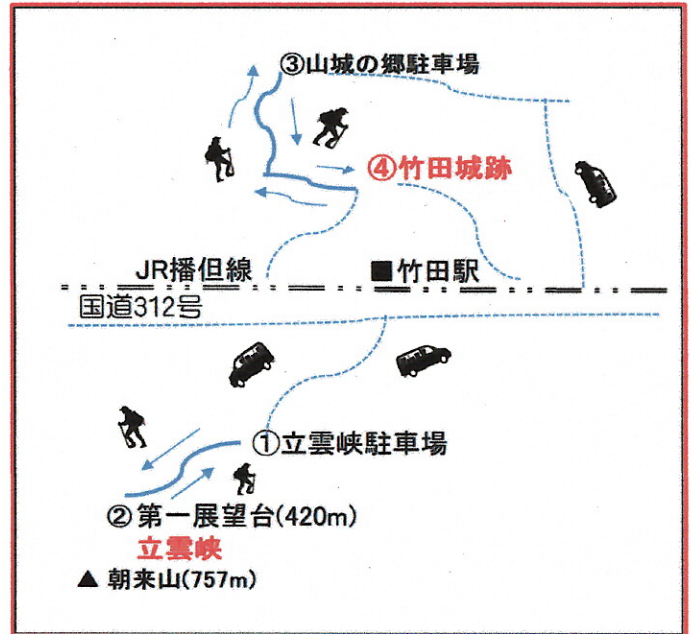
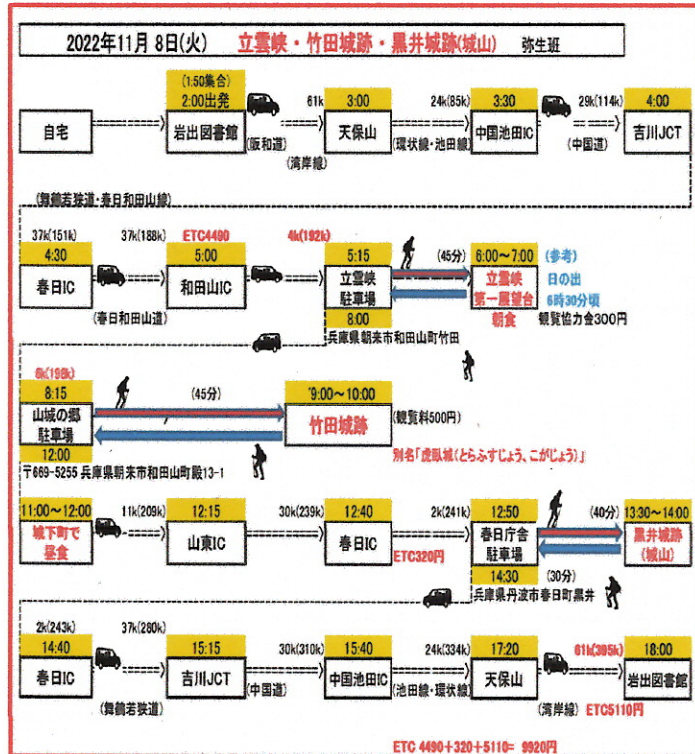
(立雲峡・竹田城跡のロードマップ)

※(山行日) ---- 2022年11月8日

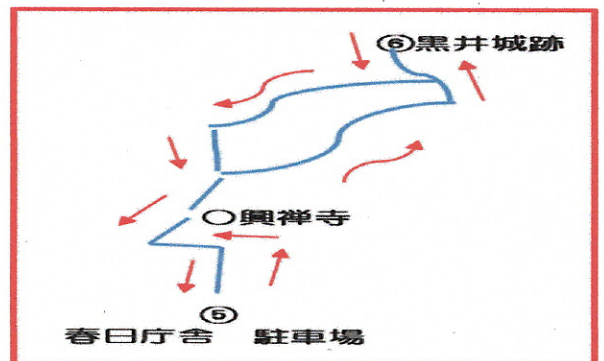
※(メンバー) -----計8名

弥生班---- 木村、楠部、中濱、山本、河原、  
上畑、有本  
他班 ---- 岡本

※(行程) [予定]



(黒井城跡のロードマップ)



※[はじめに]

## (立雲峡)

- ・兵庫県朝来市に位置する朝来山の中腹にある自然公園。雲海に浮かぶ「天空の城」の姿を望むことができる人気の展望スポット。
- ・専用駐車場から3つの展望台があり、第2展望台まで徒歩20分、もっとも竹田城跡がきれいに望める第1展望台まで徒歩40分。

## (竹田城跡)

- ・竹田城跡は、標高 353.7m の古城山山頂に築かれた山城。
- ・山全体が虎が伏せているように見えることから、別名「虎臥城(とらふすじょう、こがじょう)」とも呼ばれています。
- ・しばしば円山川の川霧により霞むことから、「天空の城」や「日本のマチュピチュ」とも呼ばれる。

## (黒井城跡)

- ・兵庫県丹波市に位置し、南北朝時代まで遡る歴史をもち、戦国時代の遺構が標高 356m の山頂にそのまま現存する典型的な山城跡。
- ・360度広がる山頂からの眺めは素晴らしく、別名「保月城跡」ともいう。
- ・竹田城跡と同じく、寒暖差がある晴天の早朝に多く霧が発生し、雲海を臨めることがある。

## (雲海が発生する条件)

- ・9月から11月の以下のような条件が揃えば、夜明け前から8時頃まで限られた時間に雲海の竹田城跡の姿を見ることができる。
- ① 前日の夜から明け方の気温が低くなり、日中に向けて暖くなる寒暖差が10℃以上ある日
- ② 天気が良い日
- ③ 風がない日(ただし、風の影響で雲海が流れてくる場合もある)



(写真1) (5:15 立雲峡登山口)



- ・和歌山を午前2時出発。  
5時に現地駐車場到着。  
整備協力金、300円/人が必要。

(写真2) (満月に浮かぶススキ)



- ・本日は満月。そして12時間後には皆既月食の日である。

(写真3) (満月に浮かぶ山々と雲海)



- ・山行途中の幻想的な景色。

(写真4) (6:30～立雲峡から景色の変化)



- ・夜が明け「竹田城跡」が船の如く浮かぶ



- ・空が赤くなり「天空の城」がはっきりと一



- ・雲海が川のように流れ色の变化も一



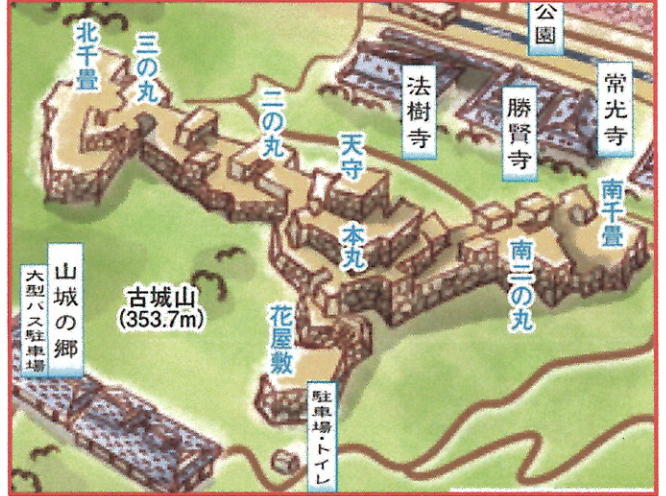
- ・石垣の姿がはっきりと一 幻想的なシーン



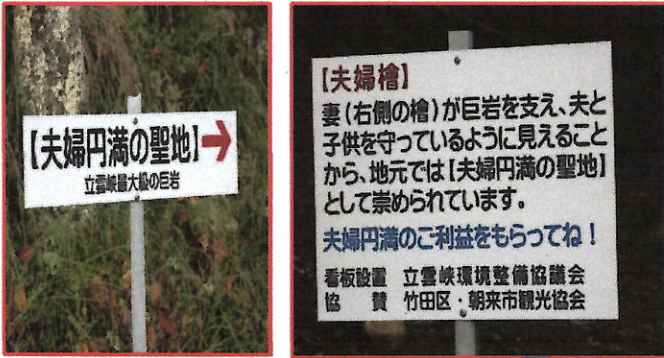
(写真5) (立雲峡から竹田城跡をバックに)



(写真8) (竹田城 復元図)



(写真6) (立雲峡の中腹に「夫婦円満の聖地」?)



(写真7) (落ちない岩?)



・落ちそうで落ちない不思議な岩と看板に..?

(写真9) (竹田城跡 北千畳から)



・竹田城跡の上から見た雲海

(余談)

- ・ここでも雲海に見とれていたら、メンバーの一人が、「霧があるけど切りがない」と一言。誰かが、座布団 1 枚と掛け声がありました。

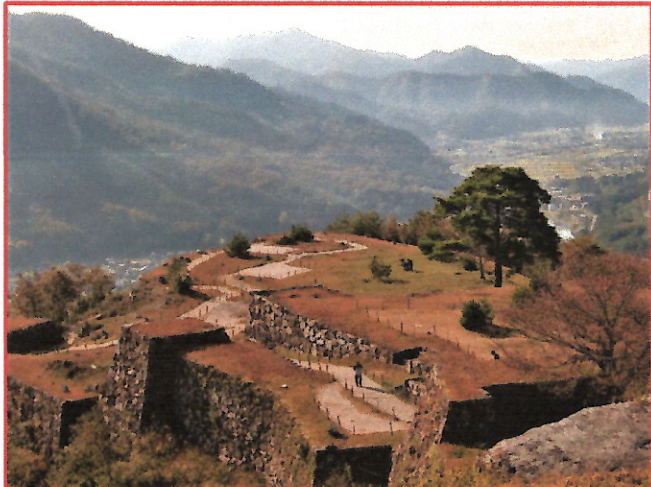
(写真10) (本丸の前で---)



・本丸には桜の枯れ枝が---前は姥桜またの名は根性桜?



(写真 11) (竹田城跡 南千畳)



・なるほど「日本のマチュピチュ」だ!!

(写真 12) (竹田城下町で昼食)



・「腹が減っては戦ができぬ」と牛めしを食らう。  
満腹後、次の目的の黒井城跡へ向かう。

(写真 13) (興禅寺)



・黒井城跡の登山口の前面にお寺がある。

(余談)

・黒井城は、天正7年、明智光秀の重臣、  
斉藤利三が城主となり、娘のお福  
(春日局・徳川三代将軍家光の乳母)が生まれ、  
興禅寺で3歳まで育ったとのこと。

(写真 14) (黒井城跡の登山口)



(写真 15) (黒井城跡の頂上-本丸)



・頂上は360度のパノラマが広がる。  
ここで、小松さん(らいちょう班)と合流?

[最後に]

(トラブル)

- ・特に山行のトラブルはなかったが、ヘッドライトの装着や点灯に慣れていない人があり、時間を要した。
- ・事前の情報不足で高速道の工事があり、予定していたルートから一般道へ迂回することになった。  
事前に高速道や道路状況を調べておく必要があり反省の一つである。

(感想)

- ・今回の目的は、雲海に浮かぶ「天空の城」を  
観賞する旅であり、当日は一年中でも数少ない  
絶好の日となり、立雲峡、竹田城跡の両方  
から雲海が見ることができ、時間の経過と共に  
景色の色が変化し、幻想的で感動しました。
- ・黒井城跡への登頂は急登で時間を要したが、  
360度の展望があり満喫しました。
- ・計画通りの山行ができ、満足である。